2025 年度　学校法人 三幸学園　大阪ビューティーアート専門学校
自己評価報告書

自己評価報告責任者 ： 副校長　島田　美穂子

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、ビューティー分野の学校として「人を美しくすることで人を元気にし、日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。

また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、ビューティー分野として「お客様を美しくすることで感謝される、サロン・組織を活性化できる人材を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

① 前年度重点施策振り返り

重点施策として退学率の軽減、就職早期化に伴うキャリア形成機会、職員の業務効率化（IT 情報リテラシー底上げ）などがあげられる。退学率軽減においては、入学時点で様々な教育指導のもとで育った学生が集まるため、専門学校で学ぶ意義やまなび方の統一認識を伝えるオリエンテーションを実施。

学生の学びへのモチベーションを醸成していくことを目的に入学後の初期段階の授業を工夫し、まずは楽しさやわくわく感を生み出すカリキュラムを設定。課題としてはその気持ちを継続させるためにどのような施策を断続的に入れていくかが重要である。

それに伴い、退学者の理由の一つである目標喪失を防ぐために現時点に目を向けるのではなく、将来を意識したキャリア形成も授業やホームルーム内で実施するが、情報としては必要な情報であっても学生にとって実感が薄く自分事として想像できないことも多く、伝えるタイミングと伝え方は今後工夫が必要である。就職活動が年々早期化しているため、早めからのキャリア形成を体系化していく必要がある。

またデジタル活用においては、高等学校でのタブレット活用の習慣化と比較するとまだまだ課題感は残るが、国家試験の課題対策として VR ゴーグルを活用した実習授業、AI 搭載のデジタル問題集を導入するなど、今まで以上に予習や復習がしやすい教育スタイルを実現。教員においても AI 活用が少しずつ普及してきているが、体系化までは至っておらず活用の方法、タイミング、ルールを今後構築していく必要がある。

3.評価項目の達成及び取組状況

(1)教育理念・目標

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	3
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

① 課題

学園や部門の理念、教育方針については入学前のオープンキャンパスをはじめ、入学時の保護者説明会や入学.オリエンテーションにて浸透するように説明の場を設けている。しかしながら目標喪失をはじめ退学希望者がいる以上、浸透できていない部分もあると考えられるため、浸透の機会の場と浸透のさせ方に工夫が必要である。
細部まで周知することにより、学生本人や保護者の学校教育への理解も深まり、学校生活の中で学生が壁にぶつかった時や退学を示唆した際にも効果的な寄り添い方ができると考えている。

② 今後の改善方策

入学後のミスマッチを防ぐために、オープンキャンパス等では学校の説明だけでなく教育面の考え方や理念も伝えていく必要がある。また、保護者への配布物や配信を通してどのような場面でも確認できるツールも検討。

③ 特記事項

特になし

(2)学校運営

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	3
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

① 課題

コンプライアンスについては時代とともに流動的に変化するものなので、生徒だけではなく業界全体や地域社会からの視点も含め常に適正か確認を続ける必要がある。明確に課題がある状態ではないが職員のコンプライアンス研修の実施を通して生徒へも理解を周知している。

情報システム化においては、現状紙面のデータ化やオンライン会議の活用などから少しずつ変わってきているが、他業界と比較した際には活用が進んでいるとは言えない状態。特に個人業務ではなく複数が関わる業務が多いため、連携を効率化することを急速に進めていかなければならない。

② 今後の改善方策

一部の職員だけがシステム化できていても根本解決にはならないため、全体の IT,情報リテラシーの底上げが必要である。全職員向けの研修等を通して早急に対処していく必要がある。

外部研修を含め各自の意識レベルを上げ、主体的に業務改善していく環境や雰囲気を作っていく。

新しいものを取り入れるチャレンジの推奨環境をつくる

③ 特記事項

特になし

＜久保委員＞（全学科）

会社内では5年前まで会議資料は紙だった。2．3年前から社内でデジタル化が進むようになり、

数字をデータで管理することがメインでおこなっている。

以前は個人で AI ツールを使用していたが、会社で登録をして安全性を担保している。

＜木田委員＞（全学科）

社内ではまだまだアナログなところが多い。

評価制度はスマホもしくはパソコンで対応しているのでデジタルは部分的である。

契約書やカルテはまだ手書きで対応している。

POP などの活用を個人レベルではおこなっているが会社としても取り組みはまだできていない。

＜村田委員＞（トータルビューティー科）

大手でできる事が中小企業では金銭面でできない事もあるが、お客様に対してカウンセリングを行いながらきれいな字でカルテを記入できると信頼につながるなどアナログでもメリットはある。

取引先とのやり取りで AI での文面が届くときに感じるのは、自分で文面を作れることを前提に AI の活用をされた方がいいのではないかと思う。

＜磯田さん＞（全学科）

学校での課題としては反省文の提出も AI 機能を使用しているところも感じられる。

オープンキャンパスでもまだ受付を手書きで行っている為、他校ではデジタル化になっていて、

高校生保護者ともにストレスを与えているかもしれない。

(3)教育活動

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成･実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育･実践的な職業教育の視点に立ったカリュキュラムや教育方法の工夫･開発などが実施されているか	3
関連分野の企業･関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成･見直し等が行われているか	3
関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技･実習等）が体系的に位置づけられているか	4
授業評価の実施･評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
成績評価･単位認定の基準は明確になっているか	4
資格（免許）取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	3
関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務･兼務含め）の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	3
関連分野における先端的な知識･技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3
職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

① 課題

カリキュラムや教育課程の見直しは適宜実施できており、第三者の意見も取り入れながら柔軟に精査できている。職員採用については、担当授業によっては資格を要する教員が必要となるため、人材不足は否めず、十分な確保が継続的にできている状態とは言い切れない。しかしながら教員の質は落とさず、最近の業界のトレンドや現場志向を持ち合わせた教員の採用を続けている。

教員の中でも様々な雇用の方がおり、講師の先生は他専門学校の兼務しているかたもいるため、学園や学校の教育方針理解をより強化し、アンバランスな教育体制にならないように注意が必要である。

② 今後の改善方策

学園のネットワークを活用し、学園や教育への理解が深い教員を採用するなど、資格、知識のみならず教育視点の採用活動を継続していく必要がある。

また、入職された教員においては入職者研修を継続して実施し、方法論だけでなく考え方や理念の浸透も強化していくことが求められる。

③ 特記事項
特になし

(4)学修成果

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
就職率の向上が図られているか	4
資格（免許）取得率の向上が図られているか	4
退学率の低減が図られているか	2
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

① 課題
退学率については継続して課題感があり、目標喪失や家計事情によるものが多いが、軽減するための施策は日々アップデートしているので継続していきたい。
退学示唆が出てから対応するのではなく、学生の視野を先に向け目標を常に与え続け自身の夢や目標を見失わないように教育活動を工夫していく必要がある。
それに伴いキャリア形成の充実が課題となってくる。

② 今後の改善方策
目標喪失が主な理由となるため、卒業後のキャリアイメージをつける機会や、働くことへの希望や給与だけではなくお客様へのホスピタリティを通して得られる達成感ややりがいについて伝え続けることが求められる。
時代が変化していく中でも不変なことは多くあるため、教育目標にあるような感謝されることの喜びを体験できるような現場実習や現場の生の声を聞く機会を増やすことも検討している。

③ 特記事項
特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント
＜磯田さん＞（全学科）
Q.キャリア形成のイメージのさせ方についてご意見を伺います。

(5)学生支援

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4

学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
課外活動に対する支援体制は整備されているか	3
学生の生活環境への支援は行われているか	3
保護者と適切に連携しているか	4
卒業生への支援体制はあるか	3
中途退学者への支援体制はあるか	2
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	3

① 課題

近年、家庭の事情や個人の心の問題などで悩む生徒も増加してきており、その悩みも多様化してきている。
教員も学生に寄り添いサポート体制も整えているが、それだけではなく心理カウンセラーによる“心の相談室”やスクールソーシャルワーカーへの相談も含めより適切な対処をしている。
また、保護者との連携は常に実施しており、保護者にとっても相談できる場としての学校教育を目指している。

② 今後の改善方策

悩みの多様化により、教員が認識していない病気や悩みを抱えている学生が増加しているため、まずは教員が症状や傾向を把握し、初手から誤った対応にならないよう注意していく必要がある。
会議内での研修や姉妹校のこども校教員からの研修などスケールメリットを生かし対処していく。

③ 特記事項

特になし

(6)教育環境

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	4

① 課題

海外研修では韓国研修もしくはヨーロッパ研修を選択することができ、参加者の満足度はとても高い。海外のプロの方からの学びは非常にいい機会になったと感じた。また、その経験により海外でのキャリア形成につながる学生もおり、少なからず学生の視座に影響を与える機会となっている。

② 今後の改善方策

学びのきっかけは多方面で与えてはいるが、研修の希望者が少ない様に感じているため、学生だからできることや、将来に繋がることをイメージさせる導入が必要と考える。また短期間研修となるため、短い時間で何をゴールとして参加するのかを明確にし、学びの多い機会にする実績を蓄積していく。

③ 特記事項

特になし

(7)学生の受入れ募集

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

① 課題

この部分については適切に運営されているため最善な状態を保つ

② 今後の改善方策

特になし

③ 特記事項

特になし

(8)財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算･収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

① 課題

【中長期計画】

なし

【予算･収支計画】

なし

【会計監査】

なし

【財務情報の公開】

なし

② 今後の改善方法

【中期計画】

なし

【財務情報の公開】

なし

③ 特記事項

2025 年度は第3期中期経営計画(2023 年度～2027 年度)の 3 年目にあたり、東京未来大学及び小田原短期大学の中期計画改定を反映し、第3期中期経営計画＜第 2.0 版＞を策定し年度開始時より適用した。中期経営計画及びその進捗状況はホームページ上に公開している。

(9)法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
自己評価結果を公開しているか	4

① 課題

この部分については適切に運営されているため最善な状態を保つ

② 今後の改善方策

引き続き法令等尊守をしていく。また、研修等を通して理解の統一に努める。

③ 特記事項

特になし

(10)社会貢献･地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献･地域貢献を行っているか	3
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
地域に対する公開講座･教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	3

① 課題

ボランティア部の設置により社会貢献意識や業界にあわせた地域貢献の機会を提供できている。依頼案件も多数あり学生への周知と依頼先への周知は進んでいるため、今後はより質の高い貢献ができるよう教育していく必要がある。卒業後、業界での仕事を通して給与をもらうことになるが、本質である感謝されることの喜びや達成感の醸成につながる活動にしていく必要がある。

② 今後の改善方策

ボランティア部が設置 2 年目を迎え、案件依頼からの当日実施の流れが体系化できているため、上級生と下級生の交流を通して地域貢献の輪を広げていく活動もしていく必要がある。生徒で自走している案件もあるため、生徒、依頼先、地域社会すべてにとってメリットのある活動となるよう引き続き運営していく。

③ 特記事項

特になし

(11)国際交流（必要に応じて）

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
留学生の受入れ･派遣について戦略を持って国際交流を行っているか	2
受入れ･派遣、在席管理等において適切な手続き等がとられているか	4
学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	3
学内で適切な体制が整備されているか	3

① 課題

毎年、数名留学生が入学しており、日本での就職を希望しているが、就職支援が難航している。言葉の問題というよりは就労ビザの問題が大きく、入学前の案内により他業界へ進学する傾向がある。

入学した学生については周囲とのコミュニケーションも良好で前向きに勉学に励む学生が多い。

② 今後の改善方策

就職においては引き続き、受入れ可能な企業との関係構築に努める。

また、同じ留学生の上級生との交流等、留学生同士のコミュニティー形成も検討していく。

③ 特記事項
特になし

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

SNS の普及などによる業界の活性化と広報活動の体系化により入学者は増加傾向にあるため、今まで以上に入学後のミスマッチや退学率の軽減に努める必要がある。理念の浸透をはじめ、専門学校で学ぶ意義とあわせて、業界のトレンドをキャッチし続ける教員の育成や、時代に合わせた適正な教育のために日々教員への研修も実施していく必要がある。
学生が学ぶ環境として、授業だけでなく外部実習やボランティア活動、海外研修など、キャリア形成につながる施策は充実しているが、より多くの学生が興味を持ち参加できる仕組みづくりを今後施策していく。
キャリアイメージをつくる機会を充実させることで、目の前の壁を乗り越えるモチベーションに繋がり、結果として退学率の軽減にも還元されるため、生徒募集の体系化、教育制度の充実、生徒の満足度向上のサイクルを継続して強化し続ける必要がある。